

Japanese Guideline for Prevention of Venous Thromboembolism: Digest

肺血栓塞栓症 / 深部静脈血栓症（静脈血栓塞栓症）

予防ガイドライン

ダイジェスト版

婦人科手術における静脈血栓塞栓症の予防

リスクレベル	産婦人科手術	予防法
低リスク	30分以内の小手術	早期離床および積極的な運動
中リスク	良性疾患手術 （開腹、経膈、腹腔鏡） 悪性疾患で良性疾患に準じる手術 ホルモン療法中の患者に対する 手術	弾性ストッキング あるいは 間欠的空気圧迫法
高リスク	骨盤内悪性腫瘍根治術 （静脈血栓塞栓症の既往あるいは 血栓性素因のある）良性疾患手術	間欠的空気圧迫法 あるいは 低用量未分画ヘパリン
最高リスク	（静脈血栓塞栓症の既往あるいは 血栓性素因のある）悪性腫瘍根治術	（低用量未分画ヘパリンと間欠的空気圧迫法 の併用） あるいは （低用量未分画ヘパリンと弾性ストッキング の併用）

（低用量未分画ヘパリンと間欠的空気圧迫法の併用）や（低用量未分画ヘパリンと弾性ストッキングの併用）の代わりに、用量調節未分画ヘパリンや用量調節ワルファリンを選択してもよい。

血栓性素因：先天性素因としてアンチトロンビン欠損症、プロテインC欠損症、プロテインS欠損症など、後天性素因として、抗リン脂質抗体症候群など。

1. 原則としては、一般外科手術のリスク分類および予防法に準ずるが、婦人科特有の疾患として上記表のようにリスク分類を行う。
2. 婦人科特有の危険因子としては、巨大子宮筋腫手術、巨大卵巣腫瘍手術、卵巣癌手術、子宮癌手術、骨盤内高度癒着の手術、卵巣過剰刺激症候群、ホルモン補充療法施行婦人などがあげられる。
3. 手術予定患者だけでなく一般女性においても、静脈血栓塞栓症の高リスク女性に対する経口避妊薬投与やホルモン補充療法は、代替治療法を選択するなど十分な注意を払う。

[▲トップページへ](#)

Copyright(c) 2009
Medical Front Int. Ltd.
肺血栓塞栓症/深部静脈血栓症（静脈血栓塞栓症）予防ガイドライン作成委員会
All rights reserved.